

会
員
広
場

“陶人「倉田遼一」作品展を終えて”

工芸部 倉田遼一

それは予期せぬ一本の電話からはじまった。昨年一月中旬、東京交通会館から「突然ギャラリーにキャンセルがでたので、使いませんかという」思いがけない問い合わせだったので。私の二九年にわたる陶芸創作の総括としての個展をやるという決意と、年末年始を挟んで一か月での準備。それはとても慌ただしい四〇日間でした。

展示のコンセプトを決める、個展の案内状の制作と印刷、案内郵送先リスト、展示する作品の選別、作品梱包の体積計算から運送業者の選択、展示レイアウトを思考、販売価格の設定、作品説明用キャプションボード。

会期初日一月二六日、早朝に作品を詰め込んだ三〇個以上の段ボール箱を搬入してもらい、午前中の早い時間に作品展示を終えた。昔、電子機器関連の会社で展示会の企画を何度か担当していたことがかなり役に立ったと思う。ブルーを基調とした大型の

皿、壺などの作品群を正面と入り口通路に配したことで「ブルーを操る倉田」のコンセプトを大いにアピールできたとおもう。小作品は創作技法や用途に分類してみた。まあ酒好きの私が作る作品、やはり酒器が多かったのもあり、酒飲み仲間がほとんどを買い上げてくれた。



二月一日までの会期中に新日美協会の皆様をはじめ、大学同級生、昔の会社の仲間、陶芸を一緒にやった方々、旧知の友人たち、親族たちが駆けつけてくれて、とても賑やかな雰囲気でした。

その中で印象的だったことは三五年来の友人が三重県からワザワザこの個展を見るために駆けつけてくれたこと、あるいは通り掛かりのコレクターの目に留まり大皿一点を、そして私設美術館の方に三点の大型作品を購入いただいたことでしょうか。そのためか搬出時のト

ラックがかなり軽くなっていた。今回の個展を顧みて、あのギャラリーの場所が通路の角にあり、作品の展示の仕方でも一般の方々にも気楽にお入りいただき、作品を感じていただけたらいいポジションであったと思う。

今回のいろんな成果と皆様方との楽しい会話などに味を占めた倉田は、来年一月再びこの場所で開催すべく、東京交通会館に予約を入れて会期を終えたことを付け加えておく。
「皆さん、また来年お会いしましょう」



編集後記

今冬、中国武漢で発生した新型コロナウイルスの猛威で、全世界が恐怖にさらされています。マスクは連日「都市封鎖」、「3密」等を掲げ、感染防止を訴えています。当会の運営面でも、公共施設の休館等で3月の小委員会や4月の委員会、多くの支部展が中止となるなど、大きな影響が出ています。一日も早い終息を願うばかりです。

担当 石原 修

会員異動 (平成30年9月~令和2年3月) 事務局

名誉会員

村社貞夫 元絵画委員
後藤千鶴子 前絵画委員
西本英高 前工芸委員

永年会員

辺見昭彦 前絵画委員
佐土原むつみ 前絵画委員
荒川正せつ子 前絵画委員
大中恵子 前絵画委員
大倉厚子 前絵画委員
星名昌和 前絵画委員
窪寺美知子 前絵画委員
岡本川重利 前工芸委員
福岡基 前工芸委員

退会

綾部久美 絵画委員
堀川幸伸 絵画委員
高藤真成 絵画委員
福井千鶴子 絵画委員
菊地榮之助 絵画委員
北川寿夫 絵画委員
酒井久夫 絵画委員
鈴木厚子 絵画委員
大島千津 工芸委員

逝去

井上榮 元絵画委員
渡邊弘己 絵画委員
岡可勝 絵画委員

入会

木トク子 絵画委員
三藤司 絵画委員
斉澤尚子 絵画委員
星澤靖子 絵画委員
荒川貴子 絵画委員
上條あき子 絵画委員
山下張村 絵画委員
尾野田秀正 絵画委員
野賀高安 絵画委員
多賀島丸野 絵画委員
長野石丸野 絵画委員
野下三子 工芸委員

以上